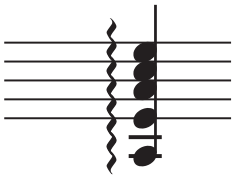
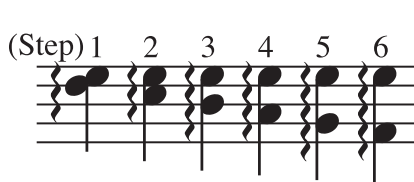
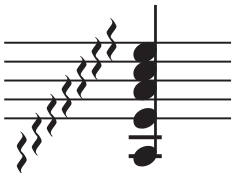


アルペジオ記号の特徴と用法

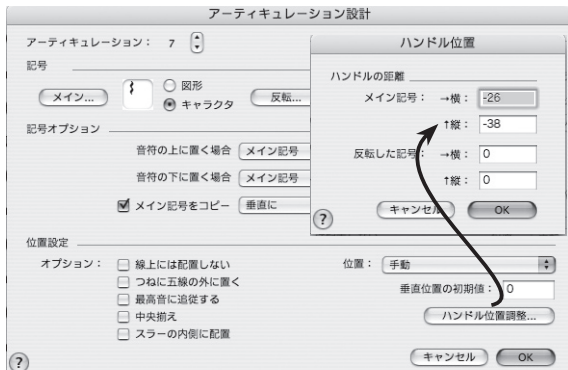
アルペジオの翻訳は「分散和音」ですが、文字通り或る和音を同時ではなく、一般に最低音から最高音に向かって順番に弾くことを意味します。この指示には縦に連なる波線が用いられますが、Finale ではアーティキュレーション・ツールのアイテムとして、デフォルト・ファイルに搭載されています。それは波が二つ繋がった状態のアイテムで、その編集ボックスを見ると、「垂直方向へのコピー」という機能が付加されているのが分かります。左の譜はそのアイテムを付けた後に、上のハンドルをドラッグして適切な位置に置いたところです。



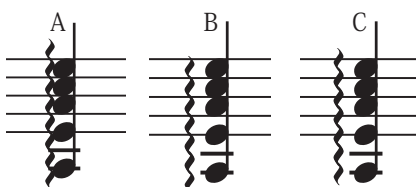
下のハンドルを左方向に水平にドラッグすると仕組みがよく分かります。一間下に複製されていて、それぞれの半分が重なるようになっていきます。これは非常に良く考えられた仕様です。例えばもう少し細めの形を意図してこのアイテムのポイント数を小さくしても、この重複のおかげで波が離れずにすむという案配です。もちろん、下のハンドルをこのように水平方向にドラッグするのは無法な操作と言うべきで、この役割はアイテムのコピー数の制御です。上に動かせば波一個単位で縮み、下に動かせば同様に波一個単位で伸びていきます。ただし、本例ではその手動調整は為されていません。



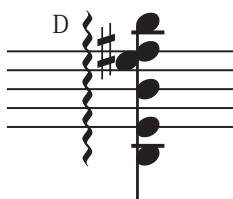
Finale は最高音から最低音までの距離を計算して、自動的に複製回数を決めています。この例ですが、二度音程と三度音程 (Finale 語では 1 ステップと 2 ステップ) なら波 3 個、つまり複製一回です。以下、3 ステップと 4 ステップでは二回複製、5 ステップと 6 ステップでは三回複製となっていることが分かります。これも良く出来た仕組みではありますが、伝統的な感覚から見て、一個多めの波がついてしまうように思えます。



本アイテムのアーティキュレーション設計ボックスです。ここでの「メイン記号をコピー」と「垂直に」という設定が肝要です。この強力な機能が魔法のような複製を可能にしているのですが、その代償として、これは位置設定オプションを「手動」に限定してしまいます。従って、「垂直位置の初期値」も無効になります。音符の左側に付くべき記号なのに、その初期位置をここでは設定できないのですが、「ハンドル位置調整」を用いて効果的な準備をしておくことは可能です。ただし、その動作は少し特異なもので、運用には一工夫必要になりますが、ここでの縦横の負の数値が、後の操作の省力化につながります。



まずアイテムを入力しますが、本例では最低音の 2 ステップ上の第一加線上をクリックするのが一つのワザです。すると (A) のようになります。次に Backspace (Mac では Clear) キーを押しますと、面白い事に (B) に変わります。この状態で上ハンドルが選択されたままですから、そのまま上矢印キーを適宜押せば (C) の出来上がりです。Finale をペテンにかける手法と言うべきか、自動計算を狂わせて波を一つ減らすワザというわけです。



本例ではハンドルの縦位置を変えて完全自動化することもできますが、それでは別の和音でうまくいかないことがあります。また、横位置についてはこの設定で OK ですが、(D) のように衝突回避音や臨時記号が有る場合には対応できません。横位置の調整も時に必要となりますが、本手順によれば上ハンドルが選択されたままで矢印キーを使うことが出来ます。省力化もさることながら、特に Finale デフォルトの長めのアルペジオを嫌う人にお勧めの操作です。記譜用フォントを自作する為に色々と研究していた頃に偶然発見したのですが、Finale の面白さの一端を示すものでしょう。